

「あっさぶメイクイン」と地域団体商標取得の取組

■「あっさぶメイクイン」とは■

厚沢部町内にあった北海道庁桧山農事試作場ではじめてメイクインが試作されたのは大正14年。以来、厚沢部のメイクインは、栽培指導者の全力を注ぐ改良増殖と厳格な肥培管理によって、今日の銘柄が確立された。

あっさぶメイクインは「煮崩れしにくい」粘質系の特徴と塩煮にすると「はぜる」（粉を吹くと言う意味の方言）紛質系に似た特徴を併せ持つ。

多くのジャガイモ産地は他所から種芋を購入して生産されているが、厚沢部町は種芋からメイクインを作っている数少ない産地の1つ。

原種、採種の種作りから食用の「あっさぶメイクイン」が生産されるまで3年の歳月をかけており、この種芋を毎年100%使用する事を条件の1つとしているほか、出荷基準にライマン価（でん粉含有率）12%以上を掲げており、この事が「はぜる」メイクインにもつながっている。



■「厚沢部といえばメイクイン」へのこだわり■

厚沢部町では、道内でいち早くメイクインの出荷が始まる。雪解けが早く、春先から営農を始めることができる早出し作型は、マルチと呼ばれる黒い被覆資材を土の上に敷いて栽培する事で農薬使用を減らして肌が綺麗な、おいしいメイクインに仕上がる。

■地域団体商標取得の取組■

全国的な販売促進のため、メイクインの生産組合において「地域団体商標」の取得を決意。

「メイクイン発祥の地厚沢部産のメイクイン」は関西方面を中心に広く知られているが、「あっさぶメイクイン」の呼称はあまり浸透しておらず、生産者、JAが一体となって道内外の販売推進の場で周知度向上に向けた取組を実施。

令和元年頃からは厚沢部町、厚沢部町商工会、厚沢部町観光協会なども参加し、町を挙げて周知活動を行いレシピコンテストやジャンボコロッケなどのイベントにも活用されるようになった。

今年は「あっさぶメイクインジャンボコロッケ」でギネス記録を更新して新たなファンも獲得。2025年にはメイクイン作付100周年を迎えるため、厚沢部町のシンボル産物として今後も更なる知名度向上と国内消費拡大に向けて取り組む。





【出願内容】

| | |
|------|---|
| 商標 | あさぶメークイン |
| 出願番号 | 商願 2022-008965 |
| 出願日 | 令和4年1月27日 |
| 権利者 | 新函館農業協同組合 |
| 指定商品 | 31 類 北海道檜山郡厚沢部町とその周辺地域で生産されたメークイン種のじゃがいも |